

各 位

東京都印刷工業組合
理事長 浅野 健

第 7 回支部長会報告書

標記会合について下記のとおりご報告致します。

記

1. 日 時 平成 20 年 3 月 6 日(木) 16:10~17:20
2. 場 所 日本印刷会館 2 階会議室
3. 出席者 (敬称略・順不同)
(支部長) 吉田(千代田)、中村(日本橋)、西山(京橋)、小島(港)、菊地(新宿)、田中(文京)、轟(上野)、横尾(浅草)、有菌(墨田)、島村(江東)、藤井(城南)、松村(山之手)、草間(城西)、森(杉並)、細谷(豊島)、朝比奈(板橋)、長嶺(練馬)、鈴木(北)、木村(荒川)、長山(足立)、加藤(墨東)、大久保(三多摩) 各支部長
(本 部) 浅野理事長、山岡、矢部、利根川、水上、花崎、工藤、森永各副理事長、武石専務理事(事務局) 生井局長、鴨井次長、中村(徹)、中村(俊)各課長、青木担当

4. 議事の概要

生井局長の司会で開会。浅野理事長が概要以下挨拶した。

今期最後の支部長会となった。毎回、各支部長が積極的に発言、提案、意見交換をしていただき感謝している。組合の運営環境が変化し、理事会や総代会のあり方の見直しが図られているが、組合員に理解して頂くにはそれなりの難しさがある。その中で支部長会は発言が活発化し進化したと実感している。

今期で退任される支部長には、今後も支部での更なる活躍を期待している。その中で、組合が変わっていくことも伝えてもらいたい。新しく就任する支部長には、多岐に亙る組合活動をより多くの組合員に理解してもらえるように活動してほしい。

続いて工藤、森永各副理事長の挨拶後、浅野理事長を議長に議事に入った。

【報告事項】

次の報告事項は事前に内容を連絡してあることから割愛した。

《訃報》

2月8日 元理事・元浅草支部長 桶野水雄氏(享年 83 歳)

2月9日 元理事・元文京支部長 利根川包吉氏(享年 81 歳)

《委員会事業関係》

1. 燃料カードの申込み状況
2. 新入社員研修セミナー
3. 平成 20 年度オフセット印刷技能検定の実施
4. 戦略営業のための実践マーケティング講座の開催結果

《その他》

1. 次期委員会編成と担当役員について

2. 支部配送
3. 今後のスケジュール

【提案事項】

支部長候補者への委員会事業説明会の開催

生井局長が、次期支部長候補者に常設委員会の事業内容を説明し、併せて支部からの委員推薦をお願いすることを目的に、標記説明会を下記にて開催する旨説明した。

日時：4月10日(木) 16:00～17:00

場所：日本印刷会館2階会議室

創立50周年記念式典・懇親会の御礼 / 長山足立支部長

標記式典に多数の参加を頂き、盛大に開催できたことを感謝申し上げます。

第1回豊島ものづくりメッセの紹介 / 細谷豊島支部長

標記行事に、豊島支部が豊島区印刷関連団体協議会の一員として出展することとなったので、ぜひ見学に来てほしい。

【協議事項1】平成19年度事業推進について

1. 「組合員の集い」について

生井局長が概要以下説明した。

(1)開催結果

日時 / 会場：2月15日(金) 16:30～19:50 目黒雅叙園

申込人数：601名(組合員559名、来賓20名、新加入招待者16名、報道6名)(昨年562名)

参加者数：講演会 364名(昨年310名)

懇親会 522名(昨年466名)

募金額：184,448円(前回159,696円、前々回121,319円)

3/6に読売光と愛の事業団へ寄贈

アンケート結果

回答数は181名(回収率34.6%)であった。

会場についての設問では、約70%が「満足・やや満足」との回答であったが、前回に比べて「不満・やや不満」とする回答が上昇した。これは、併せての記述から会場が狭かったことに起因する部分が大きいと推察される。

講演会の内容についての設問では、約80%が「満足・やや満足」との回答であり、特に「満足」のみの数字を見ると前回より約10ポイント上昇している。

メーカー等の関連業者を呼ぶことについての設問では、「組合員だけでよい」という回答が前回と比べて約10ポイント下降しているのに対し、「関連業者も呼んだほうがよい」という回答が約10ポイント上昇している。

次回の開催地についての設問では、約60%がブロックに拘らない都心での開催を望むという結果となった。

「組合員の集い」と従来の「新年会」のどちらを希望するかの設問では、昨年同様約90%が「組合員の集い」を望む結果となった。

(2)メーカー・ベンダーへの意向調査

浅野理事長から、「組合員の集い」についてメーカー・ベンダーの参加意向を調査すべきではないかの提案を受け、小野委員長の了解を得て現在調査を行なっている。調査結果は理事会(3/19)

で報告する。

(3)「組合員の集い」か「新年会」か

次年度の開催を「組合員の集い」と「新年会」のどちらを選択するかについては、次年度予算案の編成上、3月中に結論を出したい。これまでに東・南・北各ブロックのカバーエリアで開催してきたが、次年度は西ブロック内で開催することが望ましいと思われる。会場についてグレードを勘案して今後検討していく。

また、次の意見が出された。

(細谷豊島支部長)

「新年会」が良いと思っていたが、「集い」の方が小企業や他支部のなかなか会えない組合員と交流を図れる場面が多いので、現行の形がいい。

(森永副理事長)

「新年会」と「集い」の違いは、金額規模に絡むメーカー、ベンダーの参加の有無にある。それ以前に組合員全員が参加するようにしていくことが最大の課題である。

最後に、浅野理事長が、組合員の意向を収集して後日でもその意見を提示願いたい旨述べた。

2. 平成20年度に向けた組合員加入増強運動の展開について

新規加入申込みのあった2支部から、加入に至った経緯について下記のとおり説明された。

(横尾浅草支部長)

副支部長の会社の得意先という縁で加入した。

(細谷豊島支部長)

組合からの未加入者リストの中から70社を抽出し案内を送付した中で、反応があった1社が加入した。

また、本件について、森永副理事長が支部長を先頭に勧誘活動に携わった方々の努力で、前年度を上回る成績を挙げることができ、次年度も勧誘活動しやすいように、本部として最大限のサポートを継続していくとして、意見・提案を求め、次の意見が出された。

(草間城西支部長)

新加入がなかった支部の活動状況も聞くことができれば、今後の参考になると思う。なぜ加入意思がないのか、その理由を探っていくことも加入促進を図っていく上で必要ではないか。

(浅野理事長)

様々な理由が複合的に重なって、加入に至らなかったケースが多いのではないかと。

3. 共済キャンペーンの推進結果

生井局長が概要以下説明した。

契約単位ベースで、前年度同期比では、生命(106.1%)、火災(145.7%)、自動車(122.7%)、せつび(109.5%)と高い成績となったが、医療(44.4%)のみ下回った。東京海上日動あんしん生命保険(株)が金融庁の業務停止命令を受けた影響で7月まで募集ができなかったことが一因と考え

られる。

年間目標に対する達成率で、生命(28.0%)、火災(69.6%)、自動車(54.0%)、せつび(63.0%)、医療(6.7%)という結果となった。

挙績上位3支部については、理事会(3/19)において表彰する。

次いで挙績上位支部から以下のとおり取組みが紹介された。

(朝比奈板橋支部長)

共済の加入増強については支部役員会で毎回議題に上げて、積極的に活動している。また、他の保険に入っていた支部役員が組合の共済に切り替えたので成績が上がったものとする。

(森永副理事長)

荒川支部では説明会を開催し、日頃から組合のスケールメリットを活かした共済があることを宣伝しているため、毎年表彰されているのだと思う。

最後に、利根川副理事長が以下述べた。

勧誘活動に協力いただき、好成績が残せたことに感謝する。共済事業は組合の財政基盤である。3月末まで残り少ない期間ではあるが、先般作製・配付した共済事業紹介DVDを活用してさらなる勧誘活動をお願いする。

4. 製紙メーカーによる「古紙配合率偽装問題」への対応について

武石専務理事が概要以下説明した。

経済産業省と環境省は、製紙メーカー17社に対し本件に関する説明が不十分であるとして、2月20日までに再調査するように命じた。その結果、大王製紙は20年以上前から配合率を偽装していたことが判明した。

今回の問題で、再生紙の定義や配合率の検証方法が不明確であることが表ざたになったことをきっかけに、製紙連合会では再生紙の定義、古紙配合率表示(品質保障)などのあり方についての委員会を設置し検討を進めている。現在、古紙配合率の保障制度を設けることと、古紙配合率表示を実数表示に改める方向性が打出され、3月末までに結論を出したいとしている。グリーン購入法に基づく国等の調達基準も、この結論を踏まえた見直しが行なわれるものと見られる。

一方、日印産連は、製紙連合会の回答が不十分であるとして、製紙メーカーと紙流通団体に再度説明を求めた。各社からの回答については、日印産連ホームページで見てもらおう、あるいはインターネット接続が困難な組合員には事務局に連絡頂くことでFAX送信する。

古紙配合率が誤表示された印刷物の交換や刷り直しなどに伴う損害賠償については、製紙メーカー、流通から誠意を持って各印刷会社と個別に対応するとの回答であった。交換や刷り直しについてトラブルが起きた場合に相談があれば、日印産連から製紙メーカーに対して申し入れを行なうことも考えている。基本的には、各印刷会社が個別に紙流通と交渉してほしい。

また、他工組で製紙メーカーの偽装行為に対して組合として訴訟が起こせないかとの意見が出されたことを受けて、顧問弁護士に確認したところ、組合として被害を受けているわけではないので訴訟の当事者にはなれないという回答だった。

5. PRIMEDEX TOKYO 2008 の開催準備状況について

生井局長が概要以下説明した。

(1)ビジネス交流フェア(印刷ビジネス交流展からビジネス交流フェアに名称変更)

出展社募集

主催印刷 4 団体（東印工組、東グラ、G C、製本）の組合員・会員および日印産連 10 団体と東印産協 13 団体の参加組合員企業にも呼び掛ける。

東印工組組合員は、機関紙と東印工組ニュースで募集要項を案内する。

出展料 1 小間(2.7m×2.7m、高さ 2.4m) 220,000 円

(2) C G - A R T 展の作品募集

3 月から出品募集を開始する。

(3) 今後のスケジュール

実行委員会 3/11、展示部会 4/17、企画部会 3/24、広報部会 未定

【協議事項 2】運営改革プロジェクトからの答申について

生井局長が概要以下説明した。

総代会・理事会のあり方について、昨年 5 月から慎重に協議し、1/24 に浅野理事長へ答申した。この答申について 2 月、3 月の常任役員会で意見を加えたいという浅野理事長の意向を受けて検討した結果、別添資料の内容で理事会に提示することとした。この答申の取り扱いについては、3 月の理事会だけでは協議しきるのは難しいと思われるので、4 月の理事会で再度協議して結論付けたい。答申の内容は「すぐに実行できるもの」と「慎重に審議していかなければならないもの」とに色分けして取り扱いたい。

本件について浅野理事長が以下述べた。

組合の運営環境が変化していく中で、理事定数や総代の選出方法なども環境に合わせて変えていかなければ、理事会・総代会の形骸化に繋がる。

次年度は理事の改選期に当たるので、それまでの残り 2 回の理事会に「すぐに実行できるもの」と「時間をかけて慎重に審議しなければならないもの」に整理して上程し、その 2 回目となる次年度最初の理事会で最終的な承認をもらい、後者については平成 22 年度から施行したいと考えている。

また、本プロジェクトの委員を代表して、吉田千代田支部長が以下述べた。

組合の根幹に関わる問題であり、慎重に議論を重ねてきた。例えば総代の本来の役割と実態には矛盾があるなど、立場上踏み込みにくい領域についても問題を吸上げ検討した結果が、今回の答申の内容である。これをたたき台として、検討を進めてほしい。

【その他】

細谷豊島支部長から、先般案内した燃料カードについて、本カードの設定よりも安価なガソリンスタンドがあり、支部員にメリットが紹介しにくいとの意見が出され、生井局長が概要以下回答した。

個別に契約しているガソリンスタンドがある場合には、そちらのほうが安価な場合もある。普段現金で支払っている人にとっては割安であるし、給油量や金額のデータが明細書によって把握可能になるので、業務管理がしやすいのではないかと。全組合員向けに案内を流したが、メリットがある人にも紹介することをお願いしたい。

以上